

河村市長への「発言」

先月 9 月 19 日、名古屋市の河村たかし市長が衆院選出馬に意欲というニュースが、CBC などで流れた。写真は中日新聞 19 日夕刊。

安倍晋三首相の自己中心的な解散表明とともに、なんだか腹が立ったので、中日新聞の「発言」に投書した。予想通りというか、残念ながら採用されなかった。中日ドラゴンズ同様、このところ「連敗」続き。せつかくの怒りの「発言」なので、すこし修正して紹介しておく。



報道によると、河村たかし名古屋市長が 10 月末にも実施されそうな衆院選出馬を検討しているという。まだ流動的とはいえ、正直なところ驚いた。今年 4 月の市長選から 5 カ月しか経っていない。

あの春の市長選が鮮明に思い起こされる。河村市長が市民に示した公約は、一部を除きほとんど手付かずではないのか。大都市名古屋の市政は、課題が山積している。名古屋市民を裏切るものだ。河村市長の自己中心的で、思いつきの姿勢は、今に始まったことではない。

でも、こんなに早く自分の「野望」のために、市長の座を投げ出すのは、市民、有権者をなめていると言わざるをえない。これでは、安倍晋三首相と同じではないか。「仕事人内閣」の看板を掲げ発足したばかりでの解散・総選挙。まさに疑惑隠し。安倍政権はことさら「危機」をあおり、それを利用するかのようだ。こんな政治にもう黙ってはおれない。

自らの責任すら果たせないような政治家には、早く退場してもらいたい。

投書から 2 週間余り。大義なく、安倍首相の「自己都合」により衆院は解散され、10 日告示、22 日投票となった。事実上の選挙戦が始まった。解散の日に、民進党は小池新党「希望の党」に事実上、吸収されるという急展開も。希望の党による強権的な選別に抗議する民進議員により、「立憲民主党」が結成された。選挙後、政界地図はどう様変わりするのか。アベ自民と「希望」には希望がもてない。不安と期待が入り混じる。

さて、本題の河村市長はどうなったのか。自分のあとの市長の後継者が見つからない、小池知事と連絡がつかない、といったニュースが流れた。結局、河村市長は出馬を断念して、「減税」所属の市議員が「希望の党」から選挙に出るようだ。

河村市長は「名古屋のためにご奉公」と述べたそうだが、選挙で選ばれたわけで当然のことだ。でも浮ついた気持ちで、自己中心的な市政運営を続けるようなら、無理して「ご奉公」してもらわなくてもよい。なんだか複雑な気持ちになってくる。

(2017 年 10 月 6 日)